

平成 22年 6月 7日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007年度～2009年度

課題番号：19520558

研究課題名（和文） オランダ別段風説書蘭文テキストの翻訳と研究

研究課題名（英文） the Dutch Texts of Special News Reports (Apart Nieuws) :
Translation and Research

研究代表者

氏名（アルファベット）松方 冬子 (Matsukata Fuyuko)

所属機関・所属部局名・職名 東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号 80251479

研究成果の概要（和文）：研究成果の概要：別段風説書の蘭文テキストのうち、従来日本語訳がなかったものを翻刻し、和訳した上で注釈をつけた。

研究成果の概要（英文）：Abstract: In this project, the Dutch texts of Special News Reports (*Apart Nieuws*) were translated into Japanese and annotated.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2008年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：近世史

1. 研究開始当初の背景

①代表者は、1997年以來、近世初頭から幕末に至る、オランダ風説書（オランダ人が毎年幕府に提供した海外の情報）の成立から消滅までの過程を、日蘭双方の史料により、実証的に追究する研究を行ってきた。その成果は単著『オランダ風説書と近世日本』（東京大学出版会、2007年）としてまとめられ

た。

②1980年以降、日本史学界では、「情報史」が一つの流れを形成してきた。近世史分野では、主に近世後期を扱った多くの個別研究の蓄積がある。

その中でも、別段風説書については関心が高い。しかし、これらの研究は、別段風説書が和文に翻訳されてからの日本での情報の「漏洩」や伝播、政治への影響にのみ集中してい

る。

③その理由は、従来の研究がオランダ語原文や原文を送付したオランダ領東インド政庁の意図等への関心を払わず、日本側史料にのみ基づいていたからである。

2. 研究の目的

本研究は、オランダ風説書のうち、バタフィア（現ジャカルタ）のオランダ領東インド政庁から長文のオランダ語文書の形で毎年1通日本に送付され、幕府に提出された別段風説書を対象とする。別段風説書は、アヘン戦争をきっかけに1840年に送付が開始され、1857年まで毎年1通ずつ日本に送付された。1840年分から1845年分までの6通の内容は、アヘン戦争及びそれに付随する清英関係に特化しているが、1846年以降は、オランダ、イギリス、中国、インドなどは勿論、ウルグアイ、パラグアイなど南米諸国、タヒチ、ハワイなど太平洋の島々、アルジェリア等アフリカ大陸にまで及ぶ。

この内容は、1830年代までは貿易関係の業務にのみ専念してきた通詞たちにとっては、短時日で翻訳するには余る内容であった。また、1840年代以降の激動する世界情勢は、例え通詞たちが如何ほどのオランダ語学力を持っていようとも、当時の日本語で表現することは至難であったであろう。結果として、従来の研究が依拠してきた別段風説書送付当時の通詞の翻訳は、別段風説書の内容の研究の土台として不十分である。

本研究では、オランダ語史料の翻刻及び翻訳に、共同して取り組んできたメンバーが集まり、信頼できる蘭文テキストの翻刻と翻訳を作成した。また、テキストに内容註を付し、別段風説書研究の現状を根本的に打開しようとした。それらの作業により、政治史や情報史分野をはじめとする、多くのオランダ語

を読まない日本近世史研究者の利便に供しようとする。これにより幕末日本が受容した海外情報に関する研究環境が、格段に整備される。

3. 研究の方法

本研究に際しては、代表者を中心に、研究協力者として西澤美穂子、矢森小映子（2009年度より福岡万里子）を特任研究員、RAなどの形で雇用し、分担して翻訳と内容註の付与を続けた。

翻訳作成、註の付与については、必要に応じて、東洋史専門の研究者からの助言を得た。

4. 研究成果

研究期間中に、以下の年次に日本に送られた別段風説書蘭文テキストの翻刻の見直しと第1次的翻訳作成・註の付与を完了した。

下記の年次の分については、全員での検討を経て、松方が最終的な校閲をし、学会誌などへの投稿を行なった。（「5. 主な発表論文等」の項目を参照のこと。）

○平成19年度

1854年分、1847年分、1846年分（1846年分は矢森小映子「1846（弘化3）年の別段風説書蘭文テキスト」『洋学』に掲載済み）。

○平成20年度

1840年分、1850年分、1856年分

平成21年度

1841年分、1843年分、1844年分、1851年分

当初、上記翻訳はすべて学会誌等への翻訳を予定していたが、全体をまとめて史料集『別段風説書集成—オランダ語版現代日本語訳—』（仮）の形で刊行する方針に切り替えた。そのため、2009年度に行なった翻訳については、学会誌等への投稿は行わなかった。

2010 年秋の出版助成金申請に向けて、解題の執筆をするとともに出版社と協議中である。

なお、平成 21 年度には松方冬子が分担者を務める科学研究費補助金基盤研究(S) 2009～2013 年度「ユーラシアの近代と新しい世界史叙述」(代表者:羽田正)の分担金により、1842 年分、1855 年分の翻訳も完成した。なお、1845 年分、1848 年分、1857 年分は、本科研開始以前に既に研究代表者が翻訳と内容注の付与を終えており、1852 年分については、『日蘭学会会誌』に発表されている故金井圓の訳を使わせていただく旨、ご遺族のご了解を得てある。1849 年分、1853 年分については、三菱財団人文科学助成によって、翻訳と内容注の付与を行なった。

これにより、別段風説書全 18 年分の翻訳が完成したことになる。なお、1843 年、1844 年分、1855 年分の別段風説書については、当初オランダ国立中央文書館に所蔵されている原本の保存状況の悪さから、翻訳をあきらめていたが、出版社からの要請で、史料編纂所架蔵の写真帳をもとに原本校訂を経ずに翻刻、翻訳を行なった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 9 件)

①松方冬子「1856 (安政 3) 年の別段風説書蘭文テキスト」『古文書研究』69 号、95-104 頁、2010 年、査読有

②西澤美穂子・松方冬子「1840 (天保 11) 年の別段風説書蘭文テキスト」『日蘭学会会誌』34-1 号、95-122 頁、2010 年、査読有

③矢森小映子・松方冬子「1850 (嘉永 3) 年の別段風説書蘭文テキスト」『東京大学史料編纂所研究紀要』19 号、1-18 頁、2009 年、査読無

④松方冬子・矢森小映子「1847 (弘化 4) 年の別段風説書蘭文テキスト」『日蘭学会会誌』

33-1 号、73-88 頁、2008 年、査読有

⑤松方冬子「『地球的世界』のなかの『鎖国』」『歴史評論』704 号、64-67 頁、2008 年、査読無

⑥松方冬子「近世後期『長崎口』からの『西洋近代』情報・知識の受容と翻訳」『歴史学研究』846 号、68-76 頁、2008 年、査読無

⑦西澤美穂子・松方冬子「1854 (嘉永 7) 年の別段風説書蘭文テキスト」『論集きんせい』30 号、1-24 頁、2008 年、査読有

⑧松方冬子「1853 (嘉永 6) 年の別段風説書蘭文テキスト」『東京大学史料編纂所研究紀要』18 号、1-17 頁、2008 年、査読無

⑨矢森小映子・松方冬子「1849 (嘉永 2) 年の別段風説書蘭文テキスト」『論集きんせい』29 号、1-15 頁、2007 年、査読有

[学会発表] (計 7 件)

①松方冬子「カロンの甥——一六六〇年代のオランダ商館——」シンポジウム「出島文書と徳川時代」、国際日本文化研究センター、2010 年 3 月 20 日

②Matsukata Fuyuko, “The Ensign of the Bakufu: A Pre-history of Hi-no-maru,” Canton and Nagasaki Compared, Nagasaki, 3 December 2009

③松方冬子「幕府の船印——『日の丸』前史——」海事史学会月例会、2009 年 4 月 18 日

④松方冬子「オランダ風説書と長崎通詞」第 8 回日韓歴史家会議「グローバル・ヒストリーの諸相と展望」第 3 セッション、2008 年 11 月 1 日、東京:ホテルはあといん乃木坂

⑤Matsukata, Fuyuko “Catholics from Siam?: Dutch Reporting of World News from 1680s to 1750s”, The EAJS Conference, 21 September 2008, Lecce, Italy

⑥松方冬子「近世後期『長崎口』からの『西洋近代』情報・知識の受容と翻訳」、歴史学研究会大会(近世史部会)2008年5月18日、東京：早稲田大学

⑦ Matsukata Fuyuko, “Dutch reports in Japan about the Opium War”, Canton Nagasaki Compared, Macao, PRC, 6 December 2007

〔図書〕(計 1件)

松方冬子『オランダ風説書―「鎖国」日本に語られた「世界」―』中公新書、中央公論新社、2010年、216頁

〔その他〕

第30回角川源義賞 歴史学部門受賞
(2008年)

6. 研究組織

(1) 研究代表者 松方 冬子

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし